

永樂古狀揃大全

目録

今川	今川系書
手習教訓書	正満宮内生涯傳
腰越	狀 早道童子慶
義經合	狀 同 家畫
辨慶	狀 武具の繪抄
熊谷送	狀 農具の繪抄
經盛返	狀 大江道具の繪抄
大坂	狀 忠孝教の迎道
同返	狀 妙筆重寶秘録

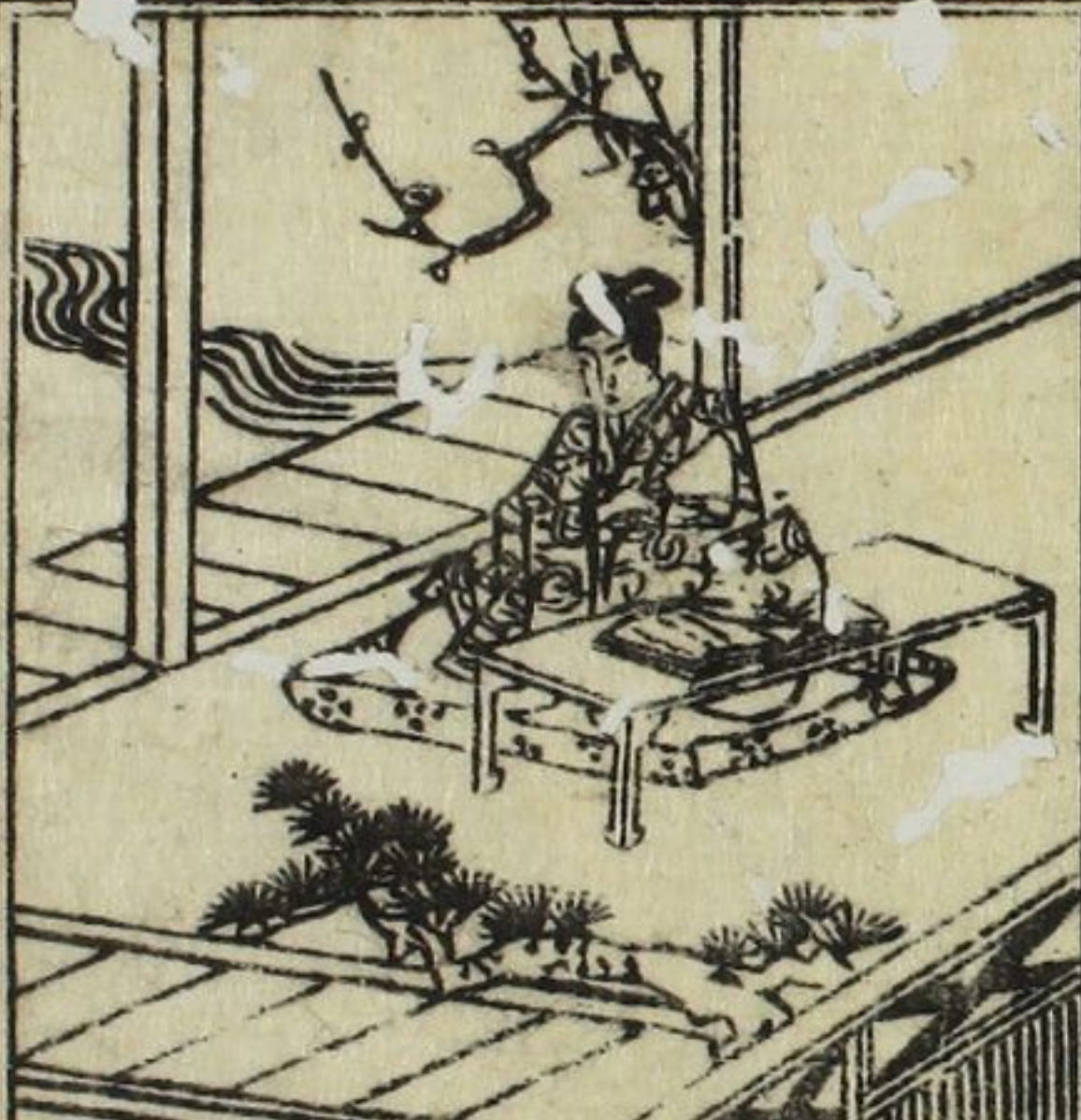




天満大自在神御生涯略傳

綱目教天神

童子天神



天満大自在神御生涯略傳... 綱目教天神... 童子天神...

天満大自在神御生涯略傳... 綱目教天神... 童子天神...



足利左馬頭義氏三男
長氏 吉良上總介
國氏 今川四郎
基氏 今川太郎藏人
基 今川式部大輔
國範 今川五郎
入道心省
範氏 今川中教少輔
義元六代之祖
貞世 今川伊豫守
入道了俊
鎮西探題
氏兼
仲秋 左衛門佐



另

夜政再版初

神天唐渡



神天牛



牛天孫... 夜政再版... 神天唐渡... 神天牛... 此書は... 天孫... 夜政... 再版... 初... 神天唐渡... 神天牛... 此書は... 天孫... 夜政... 再版... 初...

學古狀揃

書

揃

神天在浦大満天



神天楯柘



學古狀揃... 神天在浦大満天... 神天楯柘... 此書は... 學古... 狀揃... 神天在浦大満天... 神天楯柘... 此書は... 學古... 狀揃...

學道童子寶
繪抄英字盡

童一と云早くも
事すまづ天を
い其中心を
とほるなり
くんと
天と
名なり



月の方と東と
いふ方と西と
南と北と
北と南と
東と西と
春といふ二月
三月夏といふ
五月六月秋といふ
七月八月九月冬といふ

今川不復思
仲秋制詞之條
一不知文道而或乃終
一不得揚利事
一好轉勢道遠樂之
一益教生事
一少事非事不遂此月令

一死罪事
一大科業内具
一法被省免
一貧民令没例神社
一榮花事
一先祖之山莊寺塔
一被壞在私宅事

の六十月十月十二月
 十二支を合せると一
 年といふが
 春夏秋冬あれを
 四季といふ
 四季は前との
 一は二あり角ハ
 夏四月のまこと
 秋七月のまこと
 冬十月のまこと
 春三月のまこと
 年号と六歳の名
 たとの實保の延
 享といふと
 名の替を改む
 十輪と六
 甲乙丙丁

一君父重妻人合志打
 忠孝撰事
 一輕公勢重私用寇
 天道勸
 一不辨廉平之善惡不
 正賞罰事
 一我如臣中之能者亦

午 	辰 	寅 	子 
卯 	巳 	卯 	丑 

戌巳庚辛
 壬癸
 十二支との六

一可内同前事
 一企諸乱友說他
 樂身事
 一失他人之理致
 券權威
 一不知身之公限或
 分我不足事



十軒十二支を合せて
見ると二十支を合せて
あると六のり
その九のりの時八の
のりなるり
みみゆるく見れば
わくあり
その九のり八の
あり
六の外六のり



酒少のり
早六のり
ほのらち
中
死を
を
本の

古

一 嬖賢は愛倭人致
分沙法事
一 非道而奇法高
一 長酒宴遊具揚
一 迷已利根執万端
一 家職事
一 妻之可殺事

一 他人事
一 余来則據虛病能
一 対面事
一 好獨味不乾死人合
一 隱居事
一 武具衣在衣已通分
一 活中見若者事



山の中を流るる河は
あつちの山より流るる河
細く流るる河は
あつちの山より流るる河
川は流れて来た海に
入るなり
海は田舎の田に
又海は海に
てきいあを
海と云ふは
海の中は
海と云ふは

一出家沙門を以て
可也礼義あり
一貴賤不問因果道理
任安樂事
一放舍國立法國を
性遷後人事
有少事之常事

海の中を流るる河は
あつちの山より流るる河
細く流るる河は
あつちの山より流るる河
川は流れて来た海に
入るなり
海は田舎の田に
又海は海に
てきいあを
海と云ふは
海の中は
海と云ふは

馬合戦事
先可守國事
可成改道
外軍も
時相持た
有少事之常事

風俗の正しき三十三
 年 初めは入すから
 十三年のついでに
 三十三
 三十三



百十自の初めは
 合ふと一宮初と
 集積ともいふ二宮
 少の盤をふるを
 三十一のいふを
 免初七のいふを
 解のの事とす
 を解とのいふ

甚まの生れ付
 人の初めは
 物去るを身
 名



の初めは年八
 を初めとして
 名を初めとす
 後名を初めとす
 三十三
 三十三

信者友友之事 實式是
 先世祖君心見 全君宅業
 同祖謂事 有老旅可知其
 也 好律也 友友好方我
 吾實心也 但期之 進法勿

撰捨色唯亦也 慈友
 謂奉也 不限守國 昭武
 無尻色也 故而法乃 難法也
 牙正長士 家始合我 不
 投也 老以睡 由名將也 食
 滅垂也 先可也 我公昔也 志
 貴也 難集也 亦初也 志也

此の種を畑にまき
 定かたうく長く
 製するのを結にする
 と纏正とも本條天
 又ちうまひのいふ



麻の六条乃皮
 り製して法をす
 りたなり
 種をまきつらまはる
 長く生まると刈て
 上はと利て糸も
 らまらして等と長

世出典

可多々唯仏を救死生行
 信法即如法言法法徳公統
 亦捨交武勢乃法國の仁
 義礼智信嗣可老改乃
 行罪と多々恨様我念死
 罪則其款深然等因果不
 可逃其科守徳不念徳公

金網純子綿細
 天絨絨綸子



此らの織りのいふ
 の糸のうらやあつら
 たるは佐治の神社
 産名産産
 中をもお産
 かくてつらぬのい
 合ハ米と針とす
 米ハ綿といふ事あり

別是有貴難事皆要
 無益之働様私用出馬之道
 其室用者不様持人教
 究仍取願其法徳家人
 自先規如行分法相違其
 因之依主人持様威勢安
 中世既生之和合我乃安注

実りのまを細を待
 て甘極秋実を死
 おこるるなり
 細の皮はことの
 りと細と森又ハ
 扱てまよはるとの
 本と三向唯まよ
 つて白本とまよ
 その粉と糖との
 搗るるまよ食よ
 搗るるまよ田一
 作りまよ細よ作
 妻も食よまよ



不願為者空ふ能事主之朝
 儀論可は情決守也仍登
 書如件
 永享元年九月十六日
 聖皇山子智教訓書
 有夫朕之不意者幾出其
 故如何初心之思事也

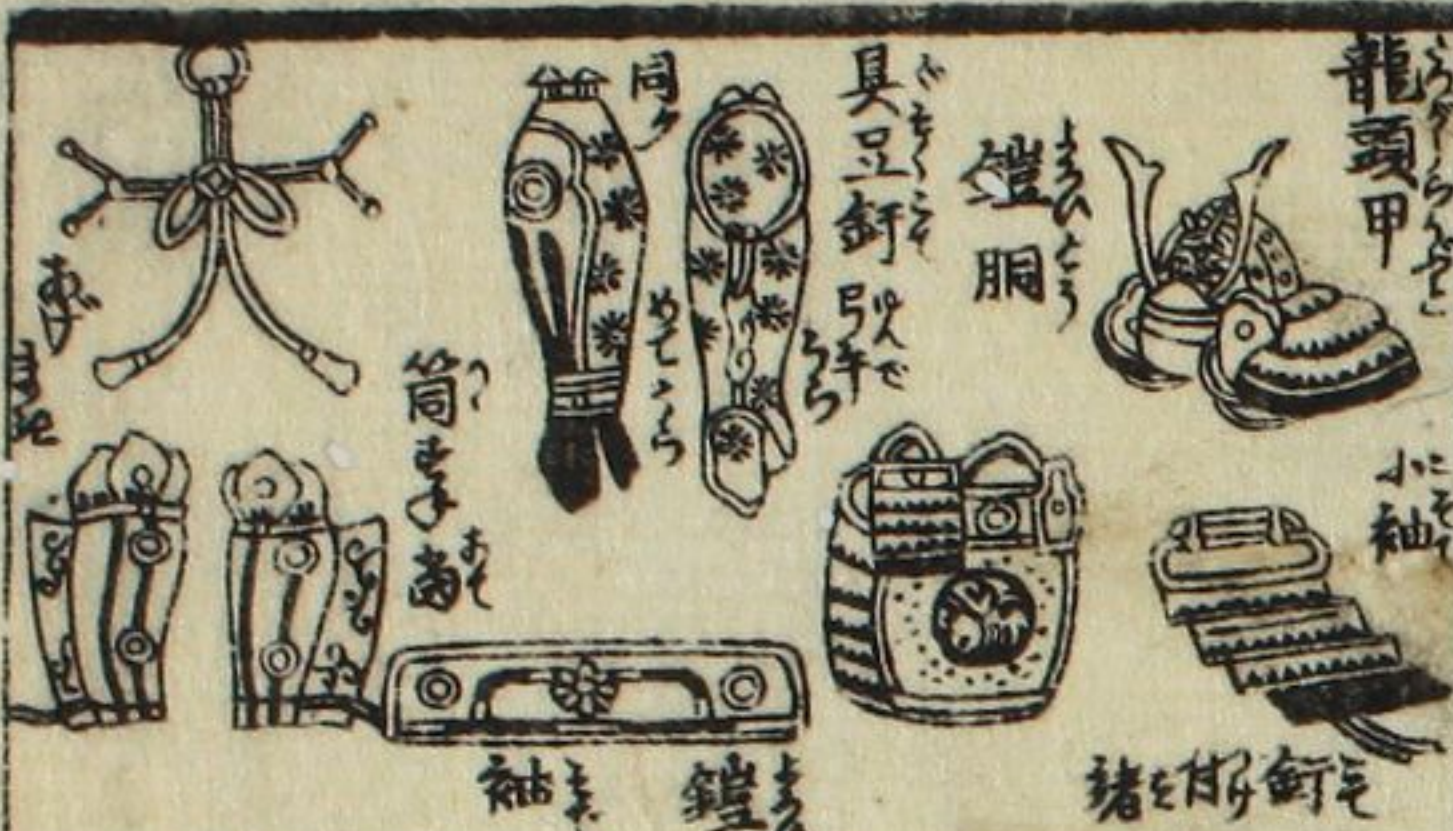
味酒ハ大乗杯と
 陰を加くと造る酒と
 那ハ米と麹を造る
 物酒ハ米と麹を造る
 麹ハ米を麹とれを
 ひらけてよと造るを
 子と吸るる酒ハ
 それハ酒と生る
 と麹との本と造る
 さらハ又と造る
 その中ハ入るこれを
 麹酒との入
 任家の事
 王様の所家と
 内裏とまよし
 公方様の所家を

如家如家武士之戦場陣道志
 如家將軍也軍軍紙等也如
 實真類也車机也如海廓
 筆名打物如大刀七刀也文
 字と書活指若るの如
 武士一人而思入大勢楯等
 城郭七太鼓事也如天



御成とすまの肉より
 多敷とのあつたなり
 神の多敷をいふも
 神も神もよはり
 相との六もあつた
 ふちのたつたなり
 こととあつたなり
 こととあつたなり
 御の山とすまの肉
 いふあつたなり
 とあつたなり
 こととあつたなり
 こととあつたなり

也難然取名卷於不
 他而取而取一
 春属以技持奉
 高名未成而月
 同少人奉奉
 物空集得取現
 可新也依之
 文空之勵
 力



龍頭甲
 具豆釘
 袖
 猪の釘
 袖
 龍頭甲
 具豆釘
 袖
 猪の釘
 袖

才智能能揚人若流人貴之
 貴就令銀年流不積而滿
 藏七珍萬寶之所經意
 也若亦於此學不用之
 甚此計非如等所因父母
 習意也歲園孝孝不後悔
 千萬也難對國師命不

其の初めの時より
 武を以て人を知る
 居りたる力の極なり



それの藝その格
 心を能く研み
 百姓

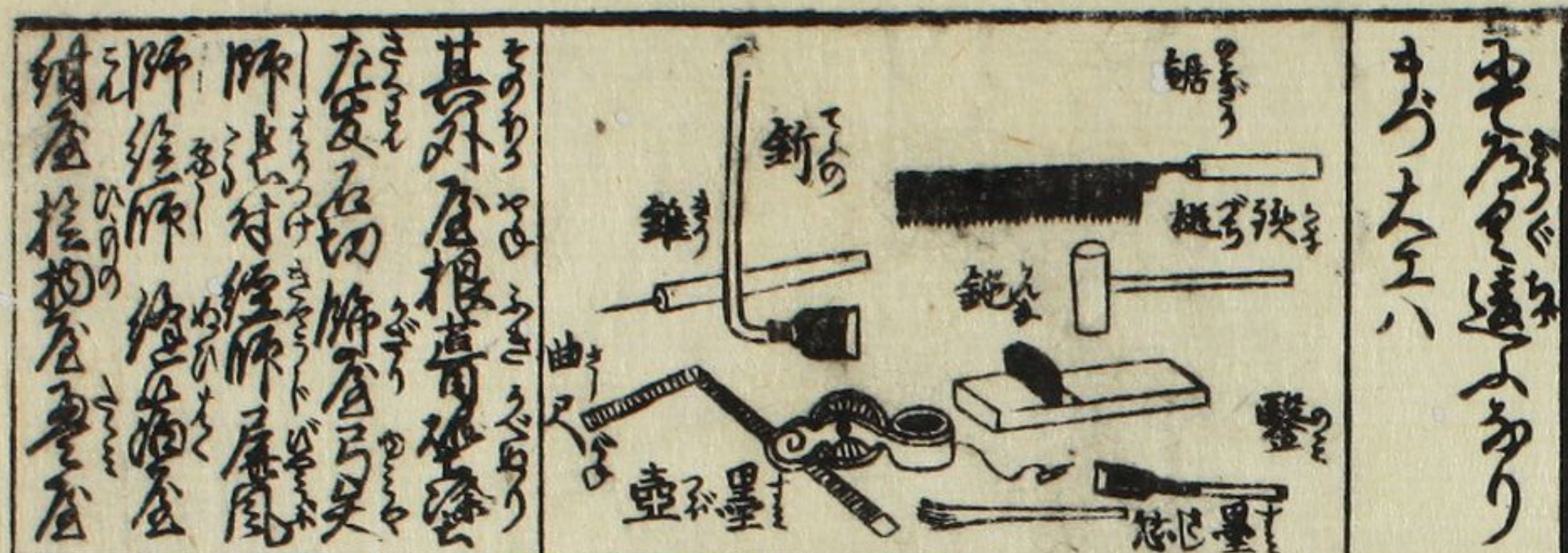


世田
 如親伯未練才一而逃下寺
 字一字交傳家先實山空如
 有得食五無藝然在每座
 在當五格也無才智也
 受万人排傍喜為初又向款
 陣武士在格宿身之逃食
 揚志其知在二期同難道

難重自托失家變之
 身立焉為病氣重
 法入先途考也然同合
 手指是以前本在故切字
 初心之如喜業未先
 万幸之致之指者
 抑達文武二道若揚名



形德放濶有才智幾能
 故可有闕上古未成名
 考也天昭以共趣有心
 全亦可實後乃靈能過
 仍教剖書如律
 腰越狀
 源義經心若上言極法



撰漸以官其力勅宜獲
 似朝款那果代以筆毫
 會瑞將等至切忠貴知
 外依虎以流去身就出
 動功義我設意托為象
 功著德嘉不勅氣之同
 減信業業志自業若思

古在後

十五

此の御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは



此の御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは

言通身先を因に其の
 若し実を言入護念守る能
 述素意は送教有為の永
 奪得此形骨肉因體は
 既絶宿運極心は其の
 業因不感能我言以奈古亡
 父も又も其の縁を離人

此の御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは
 御座り申すは



力披最言を其の何れも其の長
 情も事新の状は似て懐養
 短交の神は皮膚に父母不
 経幾回も古の教は他界も同
 成狐を抱母懐中は其の和國
 守安那は其の收は身一月行阿
 不復安法は其の自は其の法は存命

の物作らて二百圓の
 一円のものも今も
 二条判を二つ合せて
 三つ判を二つ合せて
 の二つと合せて
 小判一両五分合
 二つ判も二つ判も
 八つ判も二つ判も
 十つ判も二つ判も
 七つ判も二つ判も
 一枚の丁銀を一枚
 四捨二を二枚
 四捨二を二枚

東都の隆興難治者法蘭西
 流石を之に取らば其地遠
 國は難治者民は難治者
 考るれば熟るる道は難治者
 之族令上流子令先誦教
 本者其神法者貴族平民
 或は我れ教者其神法者

海を足板との足板
 文を十足との足板
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は
 十は十は十は十は

ぬ秋ふ願七令或時を海
 海凌風浪難治痛沉舟
 海危掛難治難治難治
 痛枕甲由自馬笑あふ業
 保安も休亡魂も其情
 各地事刻我候精任
 村糸尚家々面自希代

野合するもの成十
 まるくはまればまゝ
 の利のりきと三割
 の利との三割三割
 をきくは一倍の利
 とも智恵あるは
 りてきく利を
 ぐ町人のきく名を
 りり作し人を
 通ふぬりのり



重祇何事如夢身雖我今悲
 深歎切也固然佛法有法社
 牛王堂亦不重不排悲心者
 奉法教為日本中平所別
 本心相祖實道其書進教
 通之紀法文行以常法者先
 我國若邦遠之常集神非礼

何事もはやくしり
 のりきと三割三割
 の利との三割三割
 をきくは一倍の利
 とも智恵あるは
 りてきく利を
 ぐ町人のきく名を
 りり作し人を
 通ふぬりのり

平教非他備貴者者者者
 是是是是是是是是是是
 且秘行傳者法名故身先者
 積答解者及家門傳業者
 亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
 一期安寧身空者法傳會者
 唯唯唯唯唯唯唯唯唯唯

元暦二年六月日 源義経
 進上固情守教
 義経會成
 謹同校我經系期賜出法能
 之春運送多因滿仲家必未
 藉滿經父法盛為袖邊古遠
 國社後社古民百姓皆謀於國



儒者
 儒者之徳
 儒者之徳
 儒者之徳



尚家之冲運 撰能勸賞之
 威風日野伏 如或爾海之
 海上凌風 以難切款 漫首標
 懸觀之 肥者 藤三 年三月 標
 其身生 捕太 倉敷 父子 渡系
 鎌倉 運當 源氏 會誓 如誓
 依託 亦從 言為 三 義経 山 某 某



醫者

神佛儒道のうち一
道なりをせしめ其
をたふさん人ハ天
道なりハ人の也
野亞医をいふ
計を念ひを計治
痛痒物全治
全癒ハ切癒の云



是と膏薬を治
を外科の膏薬
接り接療の云
療治するを接療
との云

和ハ日本漢ハ唐ナリ
と他起し人の云
と人ハ漢の云
初めを徳
の行と云

勢功親父有若君思恩僅約一
人皆是運途切切捉束父子頭
業園公親切切捉束父子頭
此年有若君思恩今生
後世之恨万端誰多難是等
紙也信謹白
文治六年宣旨出首義經

進上源有若君思恩
西塔武義坊新慶
最期書拾一通
抑若君思恩有若君思恩
躬測山自音取深末息
目夜相武河呼之字祝出
刑除安安之頃備會云

文字とくは...
 唯...
 唯...
 唯...
 唯...
 唯...

別當



神主ハ神の...
 神主ハ神の...
 神主ハ神の...
 神主ハ神の...

實徳は極秘の秘法
 於定座禪...
 雨影...
 大切...
 此種...
 現為...
 難道...

此の...
 此の...
 此の...
 此の...



此の...
 此の...
 此の...
 此の...

願...
 然...
 夫...
 救...
 有...
 少...
 下...

仁義禮智信の五
徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり
徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり



私を推挙す河内侯也禁令
東家遠集幸野軍本集物
色也西院貴伏故達也志
之如規也後送樽送恨落
若志如也俗亦成也也牙
不和有難也解結句如加
實上我誠也胡誠也五年臨

徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり
徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり

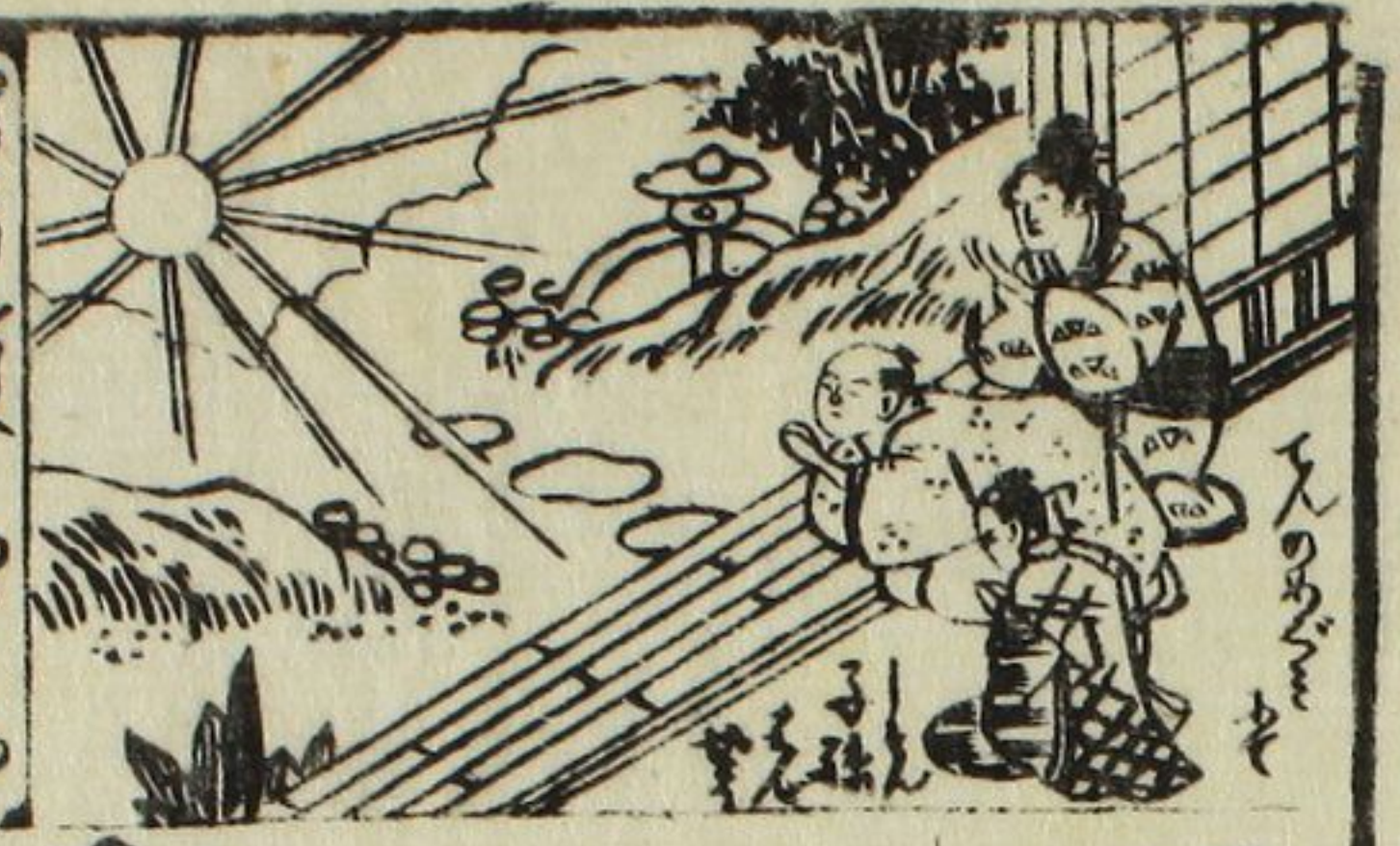


徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり
徳は人の徳なり
その徳を修め
て人を知る
事なり

唯月来史年海教光臨
跡遠而拙若也志如也牙
同花勢在余年流波園勢
都標標也踏浪谷云佐入道
竊也因也人云分云身也持前
角三于王云飛落也其後我
君用也吉野也誠也端也海

右此飛江の御
 行儀申上り申
 此後多し思
 親不孝の事
 此後多し思
 親不孝の事
 此後多し思
 親不孝の事

道新 敬も能兼 督令 義家
 河津 子室 古在 以 爲 祖 頂
 羽之 軍 實 如 天 然 自 安 不
 見 亦 實 仁 在 二 君 先 之 保
 聖 國 社 乃 榮 西 國 於 幸 於
 今 日 并 令 揚 名 乃 是 孝 死
 後 依 道 右 之 通 明 自 於 幸



忠孝教の近道
 儒のよ入る教の
 書物を讀号を
 せんはる事と
 親不孝の事と

可成 出 感 老 也
 文治六年 同 閏 月 某 日
 熊谷 送 状
 直實 謹言 有 幸 不 幸 甚 矣 幸 甚 矣
 以 若 澤 甚 矣 乃 踐 踐 採 泰
 皇 塔 當 丹 之 想 巫 塔 塔 塔 實
 刻 俄 忘 然 故 曾 速 拋 衣 之

事...
 た...
 そ...
 し...
 ろ...
 勢...



妙薬重寶秘録

△法妻け
 ○山椒子 葛草
 右のふた合酒を...

七...
 佛...
 外...
 二...
 此...
 門...
 身...

ゆ...
 △肺...
 中...
 西...
 △便...
 ○相...
 於...
 △...
 三...
 △...
 羽...
 △...
 毛...
 洗...

本...
 深...
 未...
 端...
 也...
 有...
 禁...

持てて文をりて
 居ると西化といふ
 意を指す
 此の意を指す
 乃心といふ



神乃との六法書を
 元とて程の海を
 渡りて
 神乃との星の海を
 渡りて

古正宗

新子控者... 虎乱流
 眼入後... 蘭子...
 字... 追伏成
 君... 漢金...
 師... 完仍
 園... 一日
 行... 萬

志... 七...
 一... 七...
 二... 七...
 三... 七...
 四... 七...
 五... 七...
 六... 七...
 七... 七...

園... 虎... 虎... 虎...
 園... 虎... 虎... 虎...
 園... 虎... 虎... 虎...
 園... 虎... 虎... 虎...

天明三辛丑年 鱗形屋孫兵衛 厚版
 文政九丙戌年 岩戸屋喜三郎 再版
 天保四癸巳年 求版

書 林

尾張名古屋本町七丁目
 永樂屋東四郎

